

高次脳機能障害者の就労に役立つ視聴覚教材の開発

○武内 洵平（障害者職業総合センター職業センター 障害者職業カウンセラー）
 塚 千弘（障害者職業総合センター職業センター）

1 はじめに

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）が実施している高次脳機能障害者を対象としたプログラムには、休職者を対象とした職場復帰支援プログラム及び就職を目指す就職支援プログラム（以下「プログラム」と総称する。）がある。プログラムの実施を通じて高次脳機能障害者の自己認識の促進、対処手段の習得及び高次脳機能障害者を雇用している事業主又は雇用を検討している事業主に対する支援技法の開発等を行いその成果を支援マニュアルや実践報告書にまとめ、広く伝達・普及を図っている。

本プログラムでは、表1に示すようなこれまで開発した様々な支援技法を組み合わせ、作業体験やグループワーク、個別相談等の支援を行っている。

表1 開発した様々な支援技法の一例

タイトル	成果物種別 (発行年)
高次脳機能障害の方への就労支援	支援マニュアル No.1 (2006)
高次脳機能障害者のための就労支援 ～対象者支援編～	支援マニュアル No.11 (2014)
感情のコントロールに課題を抱える 高次脳機能障害者への支援	実践報告書 No.33 (2019)
記憶障害に対する学習カリキュラム の紹介	実践報告書 No.38 (2021)
高次脳機能障害者の復職におけるア セスメント	実践報告書 No.40 (2022)
注意障害に対する学習カリキュラム の開発	支援マニュアル No.24 (2023)

令和3年度に全国の地域障害者職業センター（以下「地域センター」という。）を対象に実施した「支援技法開発のニーズ等に係るヒアリング調査」では、地域センターの職業準備支援場面等において高次脳機能障害者同士のグループが形成しづらく、開発した支援技法が活かしにくいという状況を聞いている。また、ヒアリング調査において確認した技法開発のニーズとしては、「新しい生活様式への対応として在宅で対象者が単独で自分の特性を考えられるツール等がほしい」、「個別相談の際に映像などを見ながら対象者と支援者が一緒に障害特性について学べる教材がほしい」等の意見が挙がった。

そこで、地域センターの状況やニーズを踏まえ、本プログラムで実施している、高次脳機能障害について学ぶグ

ループワークや、対処手段の習得、自己管理能力の向上を図るためのメモリーノート訓練、障害特性に対する理解を深めるグループワーク等の内容を整理し、地域センターや就労支援機関等において個別支援やオンライン支援時に活用できる視聴覚教材の開発に取り組むこととした。

2 視聴覚教材について

職業センターでの実践を通じて、プログラムで実施しているグループワークに体験ワーク（演習）や高次脳機能障害者同士の意見交換が含まれていることが、障害特性について理解を深める上で効果があがりやすいことが分かっていた。

そこで、体験ワークは個別に実施できるよう、単独で教材を視聴しながら書き込むことができるワークシートを作成した。また、意見交換が行えない代わりに、これまでのグループワークで受講者から出た意見を教材内で紹介し、他者の意見を知ることができるよう工夫した。

表2 視聴覚教材の概要

視聴覚教材のタイトル（仮）	参考にした成果物
ア 高次脳機能障害とは	支援マニュアルNo.1 支援マニュアルNo.11 等
イ 注意の機能	支援マニュアルNo.24 等
ウ 記憶の機能	実践報告書No.38 等
エ 感情のマネジメント	実践報告書No.33 等
オ 疲労	実践報告書No.33 等
カ 睡眠	実践報告書No.33 等
キ メモの活用方法	M・メモリーノート支援 マニュアル 等
ク 対処手段	実践報告書No.40 等

開発の第一段階では、これまでグループワークを通じて伝えていた内容のうち、表2のア～エを教材としてまとめ、第二段階では、睡眠の大切さや疲労のマネジメントについてまとめた。さらに第三段階では、日々の作業体験の中で伝えてきた対処手段等について教材を作成した。

(1) 構成

作成した8つの教材は、パワーポイント資料に合成音声をつけた動画として編集しており、各教材とも20～30分程度の視聴時間となっている。また、全ての教材に、視聴し

ながら書き込めるワークシートを添付している。

(2) 内容

各視聴覚教材の内容は表3のとおりである。

表3 各視聴覚教材の内容

ア 高次脳機能障害者とは
高次脳機能障害を引き起こす原因、日常生活で顕在化する障害の影響によるトラブル事例をいくつか挙げて、各障害について理解を深める。
イ 注意の機能
注意の4つの機能（持続・選択・配分・転換）を解説し、体験ワークを通して各機能の特徴について理解を深める。
ウ 記憶の機能
記憶のステップ（記銘、保持、想起）を解説し、記憶するための技として、「グループ分け」などを体験ワークで学習する。
エ 感情のマネジメント
感情が表出する仕組みを解説し、捉え方や状況を変える感情のマネジメント方法について紹介する。捉え方を変える手法としてリフレーミングなどの方法を体験ワークで学習する。
オ 疲労
疲労のサインと対処方法について説明し、リラクゼーション技法として、ストレッチや呼吸法、漸進的筋弛緩法を学習する。
カ 睡眠
睡眠の役割、睡眠時間、質の良い睡眠につながる過ごし方について解説し、自分の睡眠について振り返りができるようにする。
キ メモの活用方法
M-メモリーノートの活用方法について解説し、メモの取り方について理解を深める。
ク 対処手段
ルーラーや付箋、見直しの方法などについて解説し、対処手段について学習する。

(3) 想定している活用方法等

これらの視聴覚教材は、地域センターや就労支援機関等の支援者が高次脳機能障害者と個別またはオンラインで相談を進める際にも活用できるように作成している。

高次脳機能障害者が支援者と一緒に、または単独で、教材を視聴し、自分自身の障害特性や特性に合った対処手段について気づきを得て、ワークシートにまとめていく。さらに、ワークシートを基に支援者と相談を行うことで気づいた内容を深めていくことが可能である。

表2及び表3のアは、高次脳機能障害当事者だけでなく、高次脳機能障害者を雇用している事業主や高次脳機能障害者の家族にも障害のことを適切に理解してもらう際に用いることができると考えている。

また、表2及び表3のイ～エは、高次脳機能障害者の支援経験の乏しい支援者が視聴することで、例えば、注意の4つの機能（表3のイ参照）に沿ったアセスメントの視点を得ることができるなど就労支援を進める上で参考になる内容であると考えている。

なお、これら表2及び表3のア以外の教材については、高次脳機能障害者だけでなく、発達障害や精神障害など認知機能に障害のある対象者が視聴しても参考にすることができるように、できるだけ、「高次脳機能障害」という言葉を使わずにまとめている。

3 開発状況と今後の開発の方向性

現在、職業センターのプログラムの受講者、地域センター、就労移行支援事業所、回復期リハビリテーション病院を通じて、支援者及び利用者（または通院患者）に視聴覚教材の試案を活用してもらい、教材の活用方法や活用効果について、アンケートやヒアリング調査により広く意見を聴取しているところである。

職業センターのプログラム受講者からは、教材を視聴して、「高次脳機能障害等について理解を深めることができた」との回答があった一方で、「自分の特性を整理しようと思ったが、ワークシートにまとめるタイミングが掴めず上手くまとめることができなかった」という意見もあった。

このため、活用方法についての詳細なマニュアル（ワークシートに記入するタイミング、上手く記入ができなかった際の支援者のフォローの仕方等）が必要と考えている。

今後は、上記のような支援者や利用者の使用した感想や使用による効果を確認しながら、視聴覚教材の作成を進めるとともに、活用方法、留意事項、支援事例等を取りまとめ、2024年3月に支援マニュアルとして発行する予定である。

【連絡先】

障害者職業総合センター職業センター開発課
e-mail:cjgrp@jeed.go.jp Tel:043-297-9044